



おもしろ道ここに極まれり

研究レポートまとめ

しごきった

R-18
FOR
ADULT

研究レポートまとめ



しかぶったとは？

おもらしっ娘を観察して楽しむ、というプロジェクト。所長のドクターキューを筆頭に、ナオミと風香が架空の研究員として所属している。

主な活動内容は、ブログサイト運営、同人誌制作・販売、CGイラスト制作など。

2011年7月から「プロジェクトオブドクターキュー」の名義で活動をスタートさせる。2013年2月から所長の体調不良を理由に活動を休止していたが、2014年4月に活動を再開。2015年7月にプロジェクト名を「プロジェクトオブドクターキュー」から「しかぶった」に変更。さらに「おもらし道」を追求するために、電子書籍販売やゲーム制作など、活動の幅を広げようとしている。

ちなみに、しかぶった【漢字..仕被った】とは、中国・九州地方の方言で、「おもらしした」という意味。

特に断りが無い限り、しかぶったでの出来事は全て架空のものである。

研究レポートまとめ

【研究レポート02】 田舎道にてジーンパンで半裸でおもらし

ごきげんよう。ドクターキューである。

ここはとある田舎道。長い直線道路が続いている。

取材のため、ナオミ君と車で移動していたのだが、故障して立ち往生してしまった。

携帯電話の電波も圏外、車通りも全くないので助けを呼ぶことも出来ない。全く、こんなに近代化が進んだ日本でもこんな場所があるのだな。

数十分、外で車が通らないか待ってみるが、その気配は無い。この日は、初夏の晴れ間なのだが気温が低く、時折吹く弱い風がひんやりとして冷たい。半袖だと寒いくらいだ。

ふと、ナオミ君の方に目を向ける。タイトめの淡いピンクのTシャツに、ボディーラインにピッタリとフィットするスキニージーンズというシンプルな格好だが、スタイル抜群の彼女にはとてもよく似合う。地面に座ったおしりの形が非常にエロい。そして、なんだか落ち着かない様子。そう、顔を歪ませモジモジしているのである。

私のおしっこ我慢センサーがビンビンと反応した！

彼女に限らず女性にとってこういうトイレがないシチュエーションはかなり致命的なはずだ。

私はしばらく様子を見る事にした。

ナオミ君は内股気味に体操座りをして、膝をこすり合わせ、時たまブルツと身震いをすると二の腕に鳥肌が立つ。片手を下腹部に添えて、ゆさゆさと体を揺らしながら尿意の波に耐えている。その可愛らしい顔は段々と険しくなり、落ち着き無くキョロキョロと周りを見回している。

それから数分して、頻尿持ちの彼女はすぐに我慢できなくなり、立ち上がると私に声を掛けた。

「車も来ないし、ちよつとその辺見てきますね」

彼女はそう言うと、思いつきり内股になりペンギンの様なぎこちない歩き方でモジモジソワソワしながら近くの草むらに姿を消した。これはもうおしっこしたいと言っているようなものだ。おそらく野ションポイントを探しに行っただろう。

野ションを妨害？ そんな野暮な行為はしない。私はもっと面白い仕掛けを用意しているのだ！

しばらくすると、ナオミ君はモジモジしながら涙目になって戻ってきた。

「所長く……。誕生日に所長からもらったこのベルトが外れないんですけどく……」

私はニヤリとして返事をする。

「ほう……、ベルトを外してどうするつもりだ？」

「え……？　そ、それはあれですよ。ベルトを外して開放的な気分になりたいなあ……。あはは」

彼女は焦った様子で答える。墓穴を掘ったな。私は意地悪な質問を続ける。

「開放的な気分で何をしようとしたのだ？」

「う……」

彼女は顔を赤くしてうつむいてしまった。

「その辺の様子を見に行くのではなかったのか？」

「所長の意地悪！　もうっ！　分かってるんでしょ！？　あたしが何したいのか！」

彼女は目をギュウと閉じ口を尖らせ、怒ったように言った。いちいちリアクションが可愛いなこの娘は。

「では、何をしたいのか言ってみたまえ」

「お……」

「お？」

「おしつこですよ！」

彼女は観念して大きな声で答える。

「だあーっはっはっはっは！　素直でよろしい！　実はな、ナオミ君のベルトには仕掛けがしてあってな。今着け

ているブラジヤーのホックを外さないと、ベルトが外れないようになってるのだ！」

私はそう言いながら、腕をくの字に曲げ手のひらを天に向けたマッドサイエンティストのポーズを取る！

「ええ！？ いつの間にそんな小細工を！？」

「ナオミ君がラボでシャワーを浴びているときに細工をさせてもらった！ もちろんベルトははじめからその仕様だかな！」

「油断も隙もあつたもんじやないな、この人は！ セクハラも良いところだわ！」

「で、ナオミ君はどうするのだ？ ブラを脱いで心置きなく排尿行為が出来ると引き替えに、この青空の下そのたわわなおっぱいを露わにする方を選ぶか。それともベルトが外せなくて、そのままおもらししてしまうか。さあ、どっちを選ぶのだ！？」

迷え迷え！ 迷っているうちにもらしてしまえ！

「うう……」

すると、彼女は迷うこと無くTシャツを着たまま背中に手を回し、背中にあるブラジヤーのホックを外そうと試みる。

ああ！ しまった！ Tシャツを脱がなくてもその手があつたか！ 無念……。仕方がない、大人しく彼女のノーブラ胸ポッチと放尿姿を拝ませていただくとするか……。

しかし、神は私を見放さなかったのだ。

「あ……、あれ……？」

彼女はおしつこがしたいがためにテンパっているようだ。尿意と焦りで両膝を前に後ろに右に左に擦り合わさながら、ぴよんぴよんと小刻みに跳ね、全く落ち着きがない。

「や……、やばい！」

焦りも加わり、予想以上にTシャツを着たままブラジャーのホックを外すのに苦戦しているようだ。

「も……、もれちやうよりは……！」

そう言うと、諦めたのかTシャツを急いで脱ぎ捨てる。純白のチューブトップタイプのブラジャーと白い肌が露わになると、それが太陽の光に反射しとても眩しかった。そして、再度背中のブラジャーのホックに手を掛ける。

「外れた！」

Tシャツを脱ぐ事でようやくブラのホックを外す事が出来たようだ。カチツとベルトのロックが外れる。チューブトップのブラジャーを落として乳首が見えてしまわないようサイドベルトを腋に挟み込んだまま、ベルトの留め具を外す。

「こっ……、これでおしつこが出来……、あっ……！」

ジーンズのファスナーに手を掛けて下ろそうとした所で、口から吐息のようなエロい声が漏れると、股間にシミがじわつと広がる。

「はああああ……！」



股間から「じゅううううううう」という音がして、一瞬おくれて股間・太ももの内側・ふくらはぎの内側の順にシミが一気に広がった。同時に、全身の力が抜けてしまった彼女は半脱ぎの状態だったブラジャーをポロリと地面に落としてしまい、彼女の美乳と呼べるにふさわしいおっぱいがぶるると露わになる。落ち半ば諦めかけていた私は予想以上の状況に驚き、声を上げる。

「おおおおおおおっ！？」

ボディラインにピッタリフィットするスキニージーンズなので、おしっこが横に流れて股の前方に作られたシミがみるみる大きく広がっていく！これは恥ずかしい！一気に広がったそのシミは、その後落ち着いたように緩やかに広がり、そのシミの上を滴りのスジが何本も流れていた。足下に流れたおしっこは若干アスファルトに吸収され、一定量を超えると水たまりに変わり、広がり続け、やがて足下に落ちたブラジャーを濡らしてしまった。

おしがまという苦しみから解放された爽快感から彼女の目は少しうつろになり、うっとりとした表情を浮かべている。無意識に作ったその表情は非常に色っぽく艶やかで、私の興奮をさらに倍増させた。

「ナオミ君、後ろを向きたまえ」

私はおしりの方のシミも見たくなって、ナオミ君のお尻を両手で持って、強制的に後ろを向かせた。ナオミ君のおしっこの香りが鼻を突く。少し手についてしまったが、まだ温かさを感じる事が出来た。

「ああっ……」

研究レポートまとめ

無料サンプルはお楽しみ頂けましたか？

続きが気になる方は……、

[今すぐ購入！](#)

この作品の一部または全てを許可無く、複写・複製・再配布・私的利用を除くネットワークへのアップロード・第三者のダウンロードを一切禁じます。

この作品はフィクションです。実在の人物・団体・事件には、いっさい関係ありません。